

令和3年度 氷見市教育総合センターだより 第5報

ICTを活用した授業づくり研修会

9月21日（火）比美乃江小学校

11月30日（火）上庄小学校

指導助言：富山大学大学院教職実践開発研究科 准教授 長谷川 春生 先生

9月21日には比美乃江小学校、11月30日には上庄小学校で「ICTを活用した授業づくり研修会」が行われました。

【比美乃江小学校】2年国語科「ことばでみちあんない」 授業者：小松 佳太教諭

○ねらい

- ・タブレットPC上の地図を活用し、分かりやすい道案内のための言葉や話す順序を考える。

○学習の様子

- ・タブレットPC上の地図は、書き込みや書き換えが容易であり、児童は道のりや目印等をスムーズに書き込んでいた。
- ・地図を見ながら説明の仕方を振り返ることで、ポイントを押さえた分かりやすい道案内について理解を深めることができた。



○指導助言

- ・地図に書き込みをする時間とペアで道案内をする時間のメリハリがあったこと、ワークシートに書き込む時間が十分取られていたことが、低学年の児童への手立てとして有効であった。
- ・小学校低学年における活用を今後も続けてほしい。

○協議会

- ・参加者が Teams で PowerPoint のファイルを共同編集して意見をまとめ、協議に生かした。

【上庄小学校】5年算数科「面積の求め方を考えよう」 授業者：渡部 裕文教諭

○ねらい

- ・タブレットPC上の図を操作し、台形の面積の求め方を考え、説明する。

○学習の様子

- ・児童は、教科書のQRコードから利用できるデジタルコンテンツを活用し、図の切り取りや回転、移動等を容易に、繰り返し行っていた。
- ・図に書き込んだ各自の意見を電子黒板に送り、全員で見ながら発表を聞くことで、意見の共有がスムーズにできた。



○指導助言

- ・ペアでの意見交換から全体での発表へとスモールステップで学ぶことができていた。
- ・本時のねらいの達成に向けた手立てとして、デジタルコンテンツの活用が大変有効であった。図を実物で切り貼りするよりも操作が容易で、時間短縮にもつながっていた。

○協議会

- ・Teams の Whiteboard のファイルを使ってグループごとに意見をまとめ、協議に生かした。

「eライブラリアドバンス」活用研修会

ドリルソフト「eライブラリアドバンス」の研修会をオンラインで開催しました。株式会社ラインズの森さんを講師にお招きし、電子黒板の画面越しに説明を聞き、参加者が端末を使って実際の操作を行う体験型研修会でした。

【参加者数】 9月29日（水）38名
 10月7日（木）26名
 10月8日（金）32名 計96名

授業等での一層の活用につなげていただきたいと思います。



若手教員研修会 11月2日(火) 11月5日(金)開催

講師：氷見市立西條中学校 中山 隼人 教諭

氷見市立宮田小学校 小嶋 永治 教諭



中学校の部(11月2日)は、中山先生の自己紹介(自己開示)から始まり、「学級づくり」「授業づくり」「これからの氷見の教育を考える」をテーマに学びました。中山先生の熱い思いに触れ、意欲を高めるとともに、参加者同士が関わりながら楽しく学ぶことができました。

小学校の部(11月5日)は、「子供と教師をつなぐ学級経営～失敗から学んだセブンルール～」と題して、小嶋先生からご自身の経験に基づく貴重なお話を伺いました。小嶋先生の生き様に触れるとともに、明日からの実践に生かしていこうとする意欲を高めることができました。

<参加者の声>

- ・人間力や自分の強みを更に向上させることが、学級づくりにおいて重要であると強く感じました。また、自己開示は、他人や自分のことをこれまで以上に知り、温かい雰囲気をつくり出すのだということにも気付きました。
- ・「1年間が勝負！」という言葉聞いて、はっとした気分になった。教員になったはいいものの、この約半年間を振り返ると、「忙しい」を理由に手を抜いてしまった場面が何度もあった気がする。一日一日を大切に、何事にも全力で取り組まなくてはならないと感じた。
- ・「学級づくり」や「授業づくり」の詳しい実践例を知り、また、実際に体験することで、こんな風を感じるんだなど、改めて生徒の立場を考える重要性に気付くことができました。
- ・1年目でいっぱいいっぱいなところが多く、自分を客観視する良いきっかけとなりました。子供に歩み寄っているつもりではありますが、実際はどうなのかよく考えたいと思いました。
- ・私は児童理解よりも生徒指導を先にしていました。目の前の子供をよく見て、同じことをして、歩み寄ることができるように、絶対一日一回は話す機会をつくって声かけをしていきたいです。

新任ALTの紹介 ～よろしくお願ひします～

コロナ禍の影響でALT不在の期間がありましたが、8人のALTが氷見市に派遣され、ようやく全ての小・中・義務教育学校への配置が可能になりました。各校には大変ご迷惑をかけました。



新しいALTにとって氷見での勤務はとっても楽しいようです。児童生徒だけでなく、教職員の皆さんもALTとの交流を楽しんでください。



ケンリー・ブラスト



マリッサ・デルレイ



ジュリアン・フォンタナ



コリー・マクダーウェル



クラウディア・ゴンザレス



ダニエル・キャンベル



マシュー・メロ



アレクシア・ダイヤモンド

ふるさとで学び、ふるさとを愛する子供の育成

～上庄小学校、海峰小学校、灘浦小学校による遠隔合同授業の取組～

6学年 道徳科 主題名「友達を信頼する」教材名「ロレンゾの友達」 (11月4日)

6学年 国語科 季節の言葉 冬のおとずれ (11月19日、25日)

氷見市立上庄小学校 磯辺 浩二 教諭

氷見市立海峰小学校 宮田 拓実 教諭

氷見市立灘浦小学校 前澤 稜 教諭

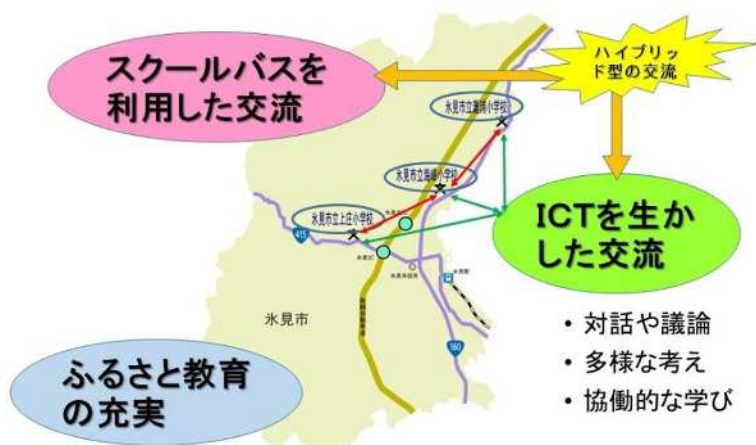
氷見市では、平成29年度までに、全ての小中学校の普通教室全クラスに電子黒板を、そして1クラス分のタブレットPCの配置が完了しました。また、令和2年度には、「GIGAスクール構想」により、1人1台のタブレットPCと高速ネットワーク環境の整備が完了しました。現在各学校では、写真や動画の撮影、プレゼン作成、プログラミング等、様々な方面での活用が進められているところです。

上庄小学校、海峰小学校、灘浦小学校では、電子黒板同士をつなぎ、映像と音声で交流したり、子供たちのタブレットPC同士をつなぎ、文字入力（共同編集機能）で交流したりする遠隔合同授業が行われました。その取組を紹介します。

11月4日、上庄小学校の磯辺教諭がT1となり、道徳科の授業を行いました。子供たちはロレンゾの友達の誰の考えに賛成か、その理由についてタブレットPCの共同編集機能を活用して自分の考えを伝えました。そして、共通点や相違点等について互いの考えを読み合い、3人の中で誰と友達になりたいと思うかを電子黒板で伝え合いました。三つの学校から多様な考えが集まることで、一人一人の考えを深めることができました。

11月19日には、灘浦小学校の前澤教諭がT1となり、国語科の授業を行いました。子供たちは「立冬」「冬至」「大寒」等、冬を表す言葉の意味を確かめ、自分が身近に感じる「冬」について、パワーポイントの共同編集で交流し、「冬」のイメージを広げました。そして、出てきた言葉の中から、自分が俳句で使いたい言葉を選び、発表しました。一人一人がイメージする「冬」は違うので、発想が広がり、俳句作りへの意欲を高めることができました。

11月25日には、海峰小学校の宮田教諭がT1となり、19日の授業後に詠んだ俳句の鑑賞会を行いました。子供たちはそれぞれが作った冬の俳句を発表し合った後、他校の作品について、よいと思った点等を共同編集で伝え合いました。そして、他校の友達からのメッセージを読んだ感想を、電子黒板を通して発表しました。




以上のように、ICTを活用して3校を結び、遠隔合同授業を行うことにより、多様な意見を聞くことができ、学習を充実させることができました。

それぞれの学校では日頃からふるさと教育に取り組んでおり、スクールバスを使って対面の交流も行っています。今後も、スクールバスやICTを活用しながら、小規模校ならではの魅力を生かし、ふるさとで学び、ふるさとを愛する子供の育成を目指して取組を進めてほしいと思います。

おすすめ新着図書

教育実践のヒントや、悩み等の解決となる参考図書が豊富に揃っています。 **ぜひ、ご活用ください。**

図 書 名	著者・発行	内 容 紹 介
<p>●こんなときどうする？ ー発達障害のある子 への支援ー</p> <p>ー小学校編ー ー中学校編ー</p>	<p>内山登紀夫監修 安倍陽子（小） 中山清司（中） 編集 ミネルヴァ書房</p>	<p>よくある日常場面を取り上げ、「こんなときどうする？」として、具体的な対応やアドバイスが満載です。また、「NG対応」の記載もあり、適切な支援の仕方について学ぶことができます。</p> <p>〔 <対応事例の例> ・授業に集中できない ・勝手に席を立つ、教室を飛び出す ・決まりごとを守れない ・昼夜逆転する等 〕</p>
<p>●白熱する教室(季刊誌) 20号 21号 22号 23号 24号 25号 26号</p>	<p>菊池省三編集 中村堂</p>	<p>夏の教育セミナーでご講演いただいた菊池先生監修の季刊誌です。毎回テーマに沿って、全国の教員の熱意あふれる実践が豊富に掲載されていて、どこから読んでも力をもらえます。</p>
<p>●国語の発問 ー いいのはどっち？ 問い比べ ー</p>	<p>山中伸之著 学陽書房</p>	<p>ごんぎつねやスイミー、大造じいさんとガン等、定番となっている教材の発問について、AorBの問いかけが満載です。すぐに活用でき、力を付ける発問について具体的に学ぶことができます。</p>
<p>●「学校に行きたくない」と 子どもが言ったとき 親ができること</p>	<p>石井志昂著 ポプラ新書</p>	<p>筆者自身の経験も踏まえ、20年の取材を経て、多くの親子が悩み、傷つきながら得たノウハウがこの1冊に凝縮されています。</p>
<p>●どの子もHappyになる！ 教室習慣づくり7つの原則</p>	<p>松島博昭著 学芸みらい社</p>	<p>『言葉の力』で心を温める、『挑戦』で毎日がワクワクする』等…。必要なメンタル&スキルが満載です。</p>
<p>●教室へのICT活用入門</p>	<p>藤本かおる著 図書刊行会</p>	<p>授業への取り入れ方や便利なツールの紹介等、ICT活用のヒントが詰まったパーフェクト・ガイドです。</p>
<p>●発達障害のある子の学びを深める 教材・教具・ICTの教室 活用アイデア</p>	<p>金森克浩他著 明治図書</p>	<p>考えを整理して話すのが苦手、九九が覚えられない等々…いっぱいがんばらなくても苦手さにちょっとアプローチできるアイテム活用法が紹介されています。</p>
<p>●小学校はじめての オンライン授業 ●(続) 小学校はじめての オンライン授業</p>	<p>堀田龍也・ 樋口万太郎編著 学陽書房</p>	<p>子供たちとつながれる、離れていても子供同士が笑顔でやりとり…オンラインでできる場づくりやオンライン授業のはじめ方等、簡単に取り組める授業づくりのヒントが満載です。</p>
<p>●まんが入門シリーズ はじめてのプログラミング</p>	<p>橋爪香織著 学研プラス</p>	<p>まんがと解説の構成になっています。プログラミングの楽しさが味わえ、挑戦意欲が高まります。</p>
<p>●プログラミング教育が よくわかる本(図解)</p>	<p>石戸奈々子監修 講談社</p>	<p>「はじめよう！家で学校で子供と一緒に体験！」をテーマに、親も先生も一緒に学べる1冊です。</p>
<p>●まんがで知る 新たな挑戦 未来への学び③</p>	<p>前田康裕著 さくら社</p>	<p>「まんがで知り、解説で納得！」一人一人が社会の形成者として新しい価値を創造していく姿が、楽しく、分かりやすく描かれています。</p>

***** ICT教育に関する図書が揃いました。ぜひ、ご活用ください！ *****